

関西舞台テレビテクノ&アート協同組合研修報告書

平成30年2月4日～2月8日の関西舞台テレビテクノ&アート協同組合研修について、以下のとおり報告を致します。

記

1. 研修名

関西舞台テレビテクノ&アート協同組合研修

2. 研修場所

アラブ首長国連邦 ドバイ

3. 研修期間

平成30年2月4日～2月8日

4. 参加者

大阪営業1部 営業企画課 1係 沼田綾子
他、各社2名ずつ参加 計 約20名

5. 研修内容

2月4日

出国

2月5日

ドバイに到着。

○バージ・アル・アラブ○ジュメイラビーチ○ジュメイラ・モスク○ドバイ博物館○ゴールドスーク○ドバイオペラ
○2020年ドバイ万博会場○ドバイパークス

2月6日

ドバイからアブダビへ移動。

○ルーヴル・アブダビ○シェイク・ザイド・グランド・モスク

2月7日

○デザート・サファリ○ドバイ・ファウンテンショー鑑賞○ブルジュ・ハリファショー鑑賞○ドバイモール

○ル・パール ショー鑑賞

2月8日

帰国

6. 研修の感想

関西舞台テレビテクノ&アート協同組ということで、各社2名ずつの参加者となり、普段お会いできない他社の社長や社員の方々と、非常に有意義な情報交換の機会が持てました。

ドバイと言うと、ユニークな建築物のイメージが湧きますが、現在も、どこを見渡しても、街中は建設中の建物ばかりで、今後もますます私たちを楽しませてくれる建造物が誕生するのが目に浮かぶようでした。

また近郊のイスラム圏では、血を流す争いが行われていることが、嘘のように平和な時間が流れていたことが印象的でした。

2月5日：ドバイオペラの視察に関して

建物の外観はドバイの伝統的な木造の"ダウ船"をイメージしているようで、美しい流線型のアウトラインが、隣接している世界一高いビルと言われるブルジュハリファに負けず劣らず、存在感を放っておりまして。残念ながら、この会場での観劇はできなかつたのですが、場内の各部屋の見学とステージマネージャーからお話を伺うことができました。話を伺っている最中、ステージでは、スタッフがバトンを昇降をし、幕を吊ったりと作業をされておりましたが、スタッフは皆ヘルメットを着用しており、安全の取り組みもしっかり根付いている印象を受けました。

2月5日：ドバイパークスの視察に関して

インド版ハリウッド映画をテーマにした「ポリウッド・パーク」内のラージマハールシアターで開催されているミュージカル"Jaan-E-Jigar"のバックステージツアーは、非常に充実した内容になっておりました。初めて見るような特殊な機構を使用しているということではないのですが、見せ方のうまさや道具の作りのクオリティが高く、参考になるような飾りを十二分に紹介してくださいました。こちら本番を観ることはできなかったのですが、ショーの一部を3分程度再現して下さったりと、サービス満点の研修でした。

2月6日：ルーヴル・アブダビ/シェイク・ザイド・グランド・モスク訪問に関して

アラブ首長国連邦の中でも最大都市と呼ばれるアブダビへ向かい、まだオープンして3ヶ月ほどのルーヴル・アブダビ美術館に行きました。サーディヤト島に浮かぶその美術館は、幾何学模様を散りばめられたメタル製の星で複雑に構成されたドーム状の屋根になっており、ただただ圧巻で、こちらが言葉を失うほどの強烈な佇まいでした。展示されている作品も、フランスから貸し出された秀逸なものばかりでした。

ルーヴル・アブダビの後は、世界最大のモスクと呼ばれるシェイク・ザイド・グランド・モスクへ向かいました。中心地から少し離れた場所にあるのですが、車で走って向かう中、唐突に巨大な白い建造物が目に飛び込んできて、美しさと荘厳さと、ライトアップされた表情がまるでアラビアンナイトの世界に迷い込んだようでした。場内は大勢の観光客がいましたが、イスラム教徒の聖地でもあるため、各々が、静かに厳粛な態度で見入っていたように思います。美術館もモスクもどちらも、感動の連続で、写真では感じ取れない衝撃を受けました。

2月7日：ドバイ・ファウンテン/ブルジュ・ハリファル・パール鑑賞に関して

最終日ということで、ドバイ市内にて、見逃しているエンタメスポットを中心に廻りました。ブルジュ・ハリファ前の湖で開催される噴水ショー「ドバイ・ファウンテン」やブルジュ・ハリファのLEDショーを同時に観ました。このドバイ・ファウンテンは、ラスベガスのベラジオの前の噴水ショーと同じ設計者のようですが、正直な所、私自身は、ラスベガスの噴水ショーの方が衝撃を受けたように思います。ブルジュハリファのLEDショーは、どれだけのLEDが使われているのか計り知れないもので、天を突き刺すブルジュハリファの存在を一層強調しておりました。

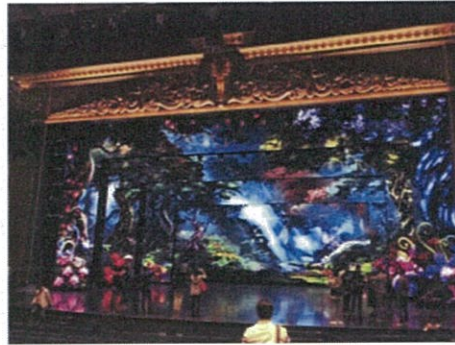
また今回最も期待していた「ル・パール」というショーは、シルク・ドゥ・ソレイユ等の演出を手掛けたフランコ・ドラゴン氏のドバイ初常設のショーで、アラブの世界観をベースに、演出、セット、パフォーマンスは、息を呑むほどの素晴らしいものでした。過去にマカオでもドラゴン氏の作品を観ましたが、こちらの方が、総合的な美術面では勝っているように思いました。劇場はどこからでも観やすい、すり鉢状のつくりになっており、劇場自体が美しい装飾が施され、ステージには、巨大な扉が静かに佇んでおり、その扉から次々登場するセットに終始、見惚れてしまう状態でした。一方で、日本での常設のショーとなると思い浮かぶのは一握りで、数年前に舞浜で上演したZEDも長続きしなかったという厳しい現状があるので、毎回、海外の常設のショーを観ると嫉妬心に駆られてしまいます。

2020年のオリンピックに向けて、日本は今、各国から注目されており、独自のエンターテインメントの展開が必要になってきていると感じます。まだまだ技術面や、想像力に欠ける部分はありますが、各国と協力して、新しいエンタメが生み出されることを強く願いますし、自身もこの場面に関われたらと、希望を抱く研修になりました。

以上



▲ドバイオペラ



▲ドバイパークス



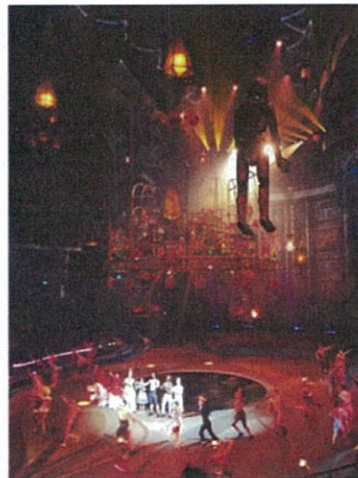
▲ルーヴルアブダビ



▲シェイク・ザイド・グランド・モスク



▲ブルジュ・ハリファ



▲ル・パール

